

＜第3号議案＞ 2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 活動計画

■2015年度の方針

2015年度は第4期中期計画（2013～2015）の最終年度です。自立できる事業計画へ最終移行します。

「遊友ひろば」は、ボランティアによる運営委員会体制で2年目となります。昨年度、貴重なご寄付をいただいた会員・利用者の皆さまや、新たに広がったボランティア・商店会等との関係をさらに深め、今まで以上に地域に愛される場として運営していきます。また、来年度以降も継続的に運営を続けられるように、賃貸物件の更新料（来年度5月に発生予定）等を事前に準備できる運営を目指します。その一方で、ボランティアの労をねぎらい、軽食や地域通貨「たま」等も活用して、感謝を形で示すことを大切にしていきます。

「メサ・グランデ」は開設から丸3年、創業支援のインキュベーションの場・食と農の地域交流拠点としての役割を果たしてきました。場所の居心地の良さと回転率が良いこと（売り上げの向上）が両立しないこと、チャレンジシェフのシステムがニーズに合っていないことなど、課題も見えてきました。ただ、回転率の良くない店だからこそ交流の場であり得、多様な人の働く場として存在できるのです。就労支援施設などからの研修生の受け入れ実績も積んできたことから、2014年度末に川崎市の地域活動支援センター新設公募に応募しましたが、残念ながら実現できませんでした。地域活動センター事業と、現在のメサ・グランデカフェ事業のコラボが、これまでぐらす・かわさきの目指してきた地域の居場所づくり、川崎の農ある暮らしを持続させる地産地消の取り組み、赤ちゃんから高齢者まで、障がいがある人もない人も、さまざまな人たちが出会え、多様な働き方の実現を持続可能な取り組みにできるのではないかと考えます。したがって、来年度、地域活動支援センターへの再チャレンジを行います。それに向けて、今年度はシニアあるいは障害のある人等への農業の効果を取り入れた援農や交流などの事業に取り組み、具体的な地域活動支援メニューにチャレンジします。

また、実際に取り崩せる寄付金（原田基金）が底をついたという現実の中、最後の挑戦として現在のカフェ事業を再生させます。これまで、法人設立以来、毎年寄付金（原田基金）の取り崩しで運営してきた実態もあり、今年度もある程度のマイナスは想定しておく必要があります。そのため、一部の役員から「利子なし、返済不可能の場合は返済請求放棄」という内容の長期借入金をします（期初に書面で保証することを了解済み）。ぐらす・かわさき全体で、「メサ・グランデ」の最後のチャレンジの年として、会員の皆さんにも具体的な利用という形での貢献をお願いしていきます。

また、川崎市コミュニティビジネス振興事業をはじめ、川崎市や他の中間支援組織と連携し、セミナー、インターンシップ事業などの取り組みを積極的に行い、地域をよくする活動をしたい人材の育成に取り組みます。子育て支援事業は、川崎市地域子育て支援センター「おおと」は引き続き受託を継続します。「かわさき市民しきん」は5月に一般財団法人として設立されますが、今後も事務局への応援を続けます。

2016年以降の第5期（2016～2018年）中期計画をワーキングチームを結成して、今年度中に策定します。

スタッフ体制は、受託事業が大幅に減ったことから、今年度も人員を削減します。事務局機能は引き続き「メサ・グランデ」内に置きますが、管理業務にかかる人件費を割くことが財源的に厳しく、ぐらすレターを減らすなど、管理的業務自体も削減します。

■2015 年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(1)事業規模 0 円

① 「かわさき市民しきん」事務局を支援する（担当：江田）

■目的：ぐらす・かわさき設立のきっかけともなった、市民の思い（共感）を表すお金（志金）と、地域の課題を解決しようと活動している団体とをつなぐ、この活動のスタートアップを応援する。

■概要：広報協力や場の提供などを行う。

② さまざまなグループへの参加と応援

■目的：市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援する。

■概要：ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体や、新しく呼びかけたり、呼びかけられて参加している団体など、ぐらす・かわさきのミッションにあったグループへ参加し（無償での参加）、応援していく。

- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
 - ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」副委員長・委員として参加（田代・吉田）
 - ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
 - ・「多摩区観光推進協議会」理事として参加（町田）
 - ・「NPO 法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
 - ・「WAC(公益社団法人長寿社会文化協会)」理事として参加（田代）
 - ・「かながわ生き生き市民基金」評議員として参加（江田）
 - ・「教育に憲法を活かす川崎市民の会」への参加（江田）
 - ・「川崎 NPO 法人連絡会」会員団体として参加
 - ・「福島の子どもたちとともに川崎市民の会」協力団体として参加
- 他にも地域の市民や活動グループからの呼びかけがあった場合は、できるだけ関わっていく。

(2) コミュニティビジネス（CB）を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(2)）

①メサ・グランデ事業

（担当理事：岸田・竹林・田代、スタッフ：田代・吉田・青木・清水佳・新堀・山上）事業規模 16,040,000 円

■目的：食と農をツールとした拠点における地域交流の促進。多様な働き方の創出。地域人材によるコミュニティビジネスや地域活動への場所の提供。

■概要：地場野菜の販売と援農。地場野菜を使った食事の提供による交流の場づくり。ワンデイシェフや貸しスペースによるインキュベーション。引きこもりや障害など困難を抱えた人の就労研修としての場の提供。

■本年度の目標：

- ・地場野菜の販売と食の提供は、3 年間の課題を突破し、少ない人員で最大限の効果的手法を日々の徹底的な改善で早急に見つけ、軌道に乗せる。
- ・ワンデイシェフや貸しスペースは継続し、CB 振興事業と連動したインキュベーション機能を発揮する。
- ・夜間は貸しスペースやパーティー利用の拡大を図る。

- ・中間的就労の場として、さらに積極的に研修生の受け入れを行い、対応ノウハウを蓄積する。

②川崎市シニアの居場所創出支援事業

(担当理事：田代・町田、スタッフ：田代・広岡) 事業規模 1,000,000円

- 目的：孤立化・孤独化する地域社会で、生きがいつくりコミュニティ活性化拠点の運営主体を地域に増やす。
- 概要：川崎商工会議所の委託を受け、地域の居場所・たまり場づくりのための連続講座を開催する。10月～2月頃を予定。市の施設及び川崎市内または周辺のコミュニティカフェにて。
- 本年度の目標：30名受講→6名具体的開業準備へ

③川崎市コミュニティビジネス振興事業

(担当理事：竹林・田代 スタッフ：田代・吉田) 事業規模 2,000,000円

- 目的：市民のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市域でのコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの振興を図る。
- 概要：川崎市の委託を受け、コミュニティビジネス振興事業を実施する。相談窓口業務は昨年引き続きメサ・グランデ店頭看板を設置。専用電話回線、メールアドレスを利用する。相談者へのフォローを引き続き行う。また、コミュニティビジネスの連続講座(7月～9月 全8回、川崎市産業振興会館にて)を開催する。
- 本年度の目標：「メサ・グランデ」という常設の起業支援の場があるということを活かし、起業実績を増やすことに注力する。相談対応数の目標件数：70件、起業目標数：2件

(3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施(定款第5条(3))

①川崎市地域子育て支援センター「おとお」 事業規模 1,900,000円

(担当理事：池畠、スタッフ：小林・手塚・清水文・山下)

- 目的：「場」を通じて、子どもにとって友だちができること、お母さんにとっても仲間と出会えること、このまちに住む人にとっても、子どもたちのことを考え交流できることを目的とする。
- 概要：中原区の委託を受け、大戸こども文化センター内で、週3日午前中、未就園児とその保護者向けのサロン事業「おとお」を実施する。
- 本年度の目標：目的にそった事業を継続するのに加え、これまでの経験から見えてきた、今の親子にとって大事な支援とは何か、現在の子育て支援センターの役割などを市へ提案を続ける。できるだけ当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるような支援を行う。

②中原区・多摩区子育て支援会議、中原区・多摩区子ども総合支援連携会議等への参加

(4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施(定款第5条(4))

①遊友ひろば事業(担当理事：池上・鈴木健介・町田) 事業規模 3,330,000円

- 目的：幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化する。
- 概要：ひろば運営に関心のある有志が運営委員会を開催。各種担当を置き、メーリングリストと

定例会議（偶数月第2日曜を基本とする）を通じて情報共有、意見交換、運営の調整をする。

■本年度の目標：(1)運営ボランティアの作業分散 (2)2016年度以降も継続可能な資金の準備

(ア) 地域住民等への活動場所の提供 主担当ボランティア：池上・秋山・細埜（石橋屋酒店）

■概要：

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円（うち200円は使用可）。新規利用者が2時間以上利用する場合は初回1時間無料特典を実施。
- ・荷物保管用引出し（1カ月500円）
- ・手紙の受け取り場所としてのレターボックス（1カ月300円）
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供（地域の市民活動・行政等の情報）

■本年度の目標：貸スペースの新規需要発掘、チラシ管理の効率化と閲覧性向上。

(イ) 健康麻雀 主担当ボランティア：瀬川・町田・長谷川・馬上・盛澤ほか

■概要

- ・主な参加者である年配者が、麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図る。
- ・初級者サロン（火曜13時～17時）1回1200円
- ・健康麻雀サロン（金曜10時～15時）1回1500円。いずれも500円は使用可。

■本年度の目標：

- (1)火曜・金曜とも卓数4（16名参加）
- (2)金曜日は特に「自分に厳しく、他人に優しく」をモットーにマナー向上を図る。
- (3)ボランティアの増員

(ウ) 親子ひろば 主担当ボランティア：粕谷・鈴木俊輔・秋山・中野・平田

■概要

- ・第2～5水曜日 10時半～14時。
- ・基本参加費300円（100円は使用可）
- ・参加者の希望に基づく多彩な講座等を実施する（実費程度を参加者から講師に直接支払う）
- ・自由な会話の場「親子カフェ」を通して地域の子育て世代が知り合うきっかけをつくる。
- ・他の施設では既存の仲間の輪に入りにくい産休育休中の方々等の受け皿である。
- ・地域で活動している母親が市民講師となり、自信をつける場としても機能する。

■本年度の目標

- (1)ボランティア運営体制の安定的維持
- (2)事業単独での黒字維持（家賃按分を除く）

(エ) 土井さんのマクロビオティック料理教室 担当ボランティア：町田・鈴木俊輔・鈴木和子・宮下

■概要

- ・季節料理、行事をとりいれつつ、体調に合わせたメニューをつくるコツを学ぶ。
- ・幅広い世代を対象にし、「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べること（身土不二）」を基本とした料理を学ぶ。
- ・講師：土井由美子さん（ぐらす・かわさき会員）
- ・第1水曜日・土曜日開催。利用料1回2500円（1回につき500円は使用可）。

■本年度の目標：様々な方法で宣伝を行い、各回最低でも5人程度の参加者を獲得する。

(オ) 寺子屋 担当ボランティア：川口・高崎・徳田・野口・町田

■概要

- ・小4～中学生に「わかった!」「やればできる!」という学びの楽しさを伝える。
- ・教科…算数・数学・英語。月曜日開催。1時間500円。講師…地域のボランティア
- ・お楽しみ会的要素も取り入れ、生徒同士の交流も図り、居場所としての役割ももつ。
- ・場合によっては、高校生クラスも適宜設ける。

■本年度の目標：小学生、中学生ともに各3名程度の参加者増をめざす。

(カ) 学習会・講座の企画・運営

■概要

恒例の予算学習会、会員からの企画提案への協力を含め、地域で学び合う機会を複数回設ける。

■本年度の目標

会報、HPを通じて企画運営者を募り、地域で学び合う場としての位置づけを明確にする。

(キ) 商店街活性化のための活動

■概要

- ・登戸東通り商店会の活動場所として遊友ひろばを活用してもらう（月額2万円）
- ・依頼に応じて、多摩区商店会連合会や登戸東通り商店会の事務補助などを行う。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

① 広報（担当理事：池上・薬袋、担当スタッフ：田代・吉田）事業規模 125,000円

人員体制が厳しい中、WEBでの報告等をこまめに行う代わりに、ぐらすレターを縮小する。

・インターネットの活用

ホームページ、ブログ、Facebookなどを使い、スピーディーに情報発信をしていく。

・ぐらす・レターの発行

昨年から隔月の発行（年間6回）としたが、今年はさらに減らし、年間3回とする。

6月（総会報告、今年度事業の紹介など）、11月（中間報告など）、3月（下半期の報告、総会のお知らせなど）。事業報告のほか、会員からの投稿を掲載し、会員や関係者に情報提供する。

② 講師派遣

依頼があればスタッフや役員を講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動を支援する。

③ 行政などに関わる委員会への参加

川崎市協働・連携のあり方検討委員会（広岡）

川崎市都市計画審議会（田代）